

OBRIGADA



「オブリガーダ」とは、ポルトガル語で「ありがとう」（女性が言う場合）の意味です。



大分日本ポルトガル協会



2012年6月発行

〒870-8504 大分市荷揚町2-31大分市国際化推進室内

☆今回の内容☆

「大友宗麟」 「南蛮文化の薫るまち、、、おおいた」 「ポルトガルのお祭り」 ほか

大友宗麟

豊後王・大友宗麟は戦国大名となり、北部九州6カ国を支配した郷土の英傑です。宣教師 フランシスコ・ザビエルを招き、キリスト教を保護するとともに、自らも洗礼を受けたことから、「キリシタン大名」とも言われています。また「南蛮貿易」を行うなど、大分とポルトガルの交流のルーツに深く関係している人でもあります。

今回のオブリガーダでは、この大友宗麟にスポットをあててみたいと思います。



- 1530年 大友家20代当主 義艦の長男として誕生（幼名「塩法師丸」）
- 1550年 21代目の当主として、豊後府内の大友館主となり「義鎮」と名乗る
- 1551年 フランシスコ・ザビエルを府内に招き、キリスト教の布教を許可
- 1557年 府内病院を開設
- 1559年 北部九州6カ国の守護となる
- 1563年 「宗麟」と名乗り、府内から臼杵の丹生嶋城に移る
- 1573年 政庁を臼杵から再び府内に移転させ、南蛮貿易による経済力を背景とした国際色豊かな商業交易都市「府内」が誕生
- 1582年 天正遣欧少年使節を派遣
- 1587年 宗麟死去（58歳）

北部九州6カ国



「南蛮文化」の薫るまち、、、おおいた

16世紀後半のおよそ50年間、豊後の国・府内（大分市）は北部九州6カ国の政治と経済の中心都市として栄えていました。

1543年、ポルトガル船が種子島に初めて到来したことを機に、多くのポルトガル人が日本を訪れるようになりました。府内にも、大友宗麟によりキリスト教の布教を許されたことで多くのポルトガル船が来航し、神宮寺浦を含む別府湾（沖の浜港）が、当時の日本における南蛮貿易の表玄関となっていました。

当時の府内はポルトガルとの盛んな交流を通じ、異国の香り漂う「南蛮文化」の花開く国際都市となり、海外にも広くその名が知られていました。



南蛮貿易により伝来したもの



《かぼちゃ》…日本で初めてかぼちゃが持ち込まれたのが府内でした。



《キリスト教》…府内には宗麟によりキリスト教の布教を許されたフランシスコ・ザビエルをはじめとする多くの宣教師が訪れ、当時の日本キリスト教界の中心として位置しました。宗麟自身も受洗し「ドン・フランシスコ」との洗礼名を受けています。
聖フランシスコ・ザビエル像／大分市（大手公園）

《西洋医学》…ポルトガル人「ルイス・アルメイダ」により日本初の西洋式病院「府内病院」が建設されました。ここでは内科等の一般的治療のほか、簡単な外科手術が行われたことから、府内は西洋医学発祥の地といわれています。
西洋医学発祥記念像／大分市（遊歩公園）



《西洋音楽》…1557年のクリスマスイブに、オルガン演奏による賛美歌が府内で歌われました。これが初めて日本で演奏された西洋音楽と言われています。
西洋音楽発祥記念碑／大分市（遊歩公園）

《西洋演劇》…音楽とともに西洋演劇も府内へ伝えられました。クリスマスや復活祭などのとき、聖書の物語に合わせ日本風の歌の添えられた演劇が日本人のキリシタンによって教会で上演されていました。
西洋演劇発祥記念碑／大分市（遊歩公園）



ポルトガルのお祭り

ポルトガルには古くから伝わる伝統的なお祭りが数多くあります。
今回はその中から2つのお祭りをご紹介します。

●聖アントニオ祭(リスボン)

リスボンでは、毎年 6月12日から13日にかけて、ポルトガルの守護聖人 ※ 聖アントニオの日をお祝いするお祭りが開催されます。

お祭りは12日 夜にピークを迎え、町の各地区が華やかなパレードを組み、リベルダーデ大通りを下っていきます。大勢の歌手やダンサーが参加し、観衆はひいきのパレードを拍手喝采で迎えます。

アルファマ 地区の入り組んだ路地や 石段を上っていくと、色鮮やかな飾りのもと、民謡をはじめ様々な音楽が流れ、人々が踊り、名物料理「イワシの炭火焼」を焼く煙があたりを満たします。

また、聖アントニオは縁結びの聖人でもあり、この日にマンジェリコ（バジルの鉢植え）と愛の詩を贈り、想いを伝える習慣があります。

※守護聖人…カトリック教会などで、特定の個人・職業・身分・団体・都市・国家などを保護し、神へのとりなしをするとして崇敬されている聖人。日本の守護聖人はフランシスコ・ザビエル。



パレードの様子



お祭りで出店されている屋台
イワシを炭火で焼いています



イワシの炭火焼
パンと一緒に食べるのではなく、
お皿の代わりにします

●聖母出現祭(ファティマ)

ポルトガルのファティマという都市をご存知ですか？面積 71km²、人口約 10,000人の小さな町ですが、カトリック教徒には聖母の出現した町として、よく知られています。

1917年 5月13日から 6回にわたって 聖母マリア と名乗る謎の女性が現れ、この町に住む 3人の子ども達に世界の危機を暗示する3つの予言を伝えました。なかでも第3の予言については、あまりにも衝撃的な内容であったため ローマ教皇がこれを公表することを禁止し、今なお明らかにされていません。その後、カトリック 教会は5月13日を ファティマの聖母出現記念日と決めました。

ファティマはもともと小さな農村でしたが、5月～10月の12、13日には聖母出現祭が開催され、年間300万人もの信者が祈りを捧げに訪れる国際的な巡礼地となっています。



聖母マリアに捧げるため1953年に
建造されたバジリカ(大聖堂)



ファティマの聖母像
バジリカの中に安置されています



聖母出現祭の様子

◆◆◆ポルトガルスイーツ◆◆◆

ポルトガルで人気のホームメイドスイーツ「ポーロ・デ・ボラツシャ」のレシピを紹介します。



材料:

インスタントコーヒー	大さじ1.5程度
砂糖	大さじ2
粉砂糖	200グラム
バター	250グラム
卵黄	2個
ココアパウダー	大さじ3~4
マリービスケット	300グラム程度

作り方:

1. ビスケットを浸すための小さなボールを用意し、インスタントコーヒーと砂糖を加え、250mlの熱湯で溶かします。
2. 湯せんにかけたバターに粉砂糖と卵黄を加え、よく混ぜます。バターと砂糖をなじませ、ダマにならないように注意します。
3. 1で用意したコーヒーをティースプーン2~3杯程度とココアパウダーを2に加え、更によく混ぜます。
4. 3で用意したコーヒーにビスケットを浸します。長く浸すと、ビスケットがふやけてしまうので、早めに取り出します。
5. コーヒーに浸したビスケットを皿に並べ、その上に3で作ったクリームを乗せて層を作っていきます。
6. ビスケット→クリーム→ビスケット→クリームという風にビスケットがなくなるまで繰り返します。
7. ビスケットがなくなったら、残りのクリームでトップにデコレーションします。

◆◆◆ポルトガルカフェ◆◆◆

ポルトガルのカフェでの一般的な飲み物をご紹介します。

●Café(カフェ)またはBica(ビカ)●

ポルトガルコーヒーの基本形はエスプレッソコーヒーです。小さめのカップに7分目程度まで入っています。ポルトガルではこれに砂糖をたっぷり入れていただきます。



●Gartoto(ガルト)●

基本形のBica(ビカ)にミルクを加えたものです。Bica(ビカ)の強い苦味が苦手な方はこちらがオススメです。

●Carioca(カリオカ)●

基本形Bica(ビカ)にお湯を加えて薄めたものです。日本のブラックコーヒーに近い味でしょう。お好みで砂糖を加えてもOKです。

●Cevada(セバダ)●

Cevada(セバダ)とはポルトガル語で「大麦」という意味です。その名のとおり麦茶ですが日本のそれとは異なり、とても濃くコーヒーに近い味です。ポルトガルの伝統的なお菓子・エッグタルトとの相性も抜群です。

●Chá(シャ)●

日本でも定番の紅茶です。ティーポットからカップに注いで、香りを楽しみながらいただきます。

～編集後記～

今回の「オブリガーダ」は、いかがでしたでしょうか。

これからも、ポルトガルを知り、親しんでいただける情報を発信していきたいと思えます。

皆様からの情報・お知らせなどありましたら、ぜひ事務局までお寄せ下さい。

★大分日本ポルトガル協会事務局★